



# 川中だより

令和6年7月25日(木) 発行

新発田市立川東中学校

学校だより 第4号

TEL (25)2011 FAX (25)2022

<https://kawahigashi-j.shibata.ed.jp/>

先日、インターネットに出ていた「イギリス在住経験のある日本人女性が感じた『世界に誇れる一面』とは」という記事を読みました。今まで、私自身が意識したり、感じたりすることが少なかった様子が書かれていて、「なるほど」と思いましたので、少し紹介します。

この記事に出てくるイギリス在住の日本人女性が、イギリスに住み始めた当時、夏の暑い時期に薄いぺったんこのサンダルを履いて歩いていたところ、職場の人から「薄いサンダルは危ないかも」とアドバイスされたそうです。

それは、なぜだと思えますか？

この記事によると、「他の先進国の中にも住宅街を10メートル歩くだけで、道路上に何度ごみに当たるかわからない。家庭ごみから食べ歩きのポイ捨て、犬や馬のフン、そして一番困るのはガラスの破片だ」と…。しかし、その街には街中のあちこちにごみ箱が設置され、ごみを捨てる場所はあるのに、道路上にはごみが多く散乱しているそうです。

一方、外国の方が日本の空港に到着した時に、一番に驚くのはピカピカに磨かれた床など公共の施設の清潔さに驚くそうです。また、建物だけでなく一般の道端を歩いてもその清潔さを感じることはしばしばだ…と。

しかし、筆者が言うには「日本はコロナ禍や東京五輪などを経たあたりから、街中のごみ箱が消えた。コンビニエンスストアのごみ箱も外付けから店内備え付けタイプが増えた。それを不便に感じることも多いが、それでも日本の道路や公共施設は非常に清潔が保たれている。結局、街がきれいなのは人々の意識の差なのかもしれない」とまとめています。

つまり、この記事で言う日本に誇れるものは「公共のルールを守ろうとする日本人の意識の高さ」だと言っているのではないのでしょうか。

そういえば、サッカー元日本代表の田中マルクス闘莉王さんも16歳でブラジルから日本の高校に留学した際に「生徒が校舎を清掃する時間がある」ことに驚いたそうです。ブラジルでは業者の人が校舎を清掃します。しかし、彼が長年日本で生活している中で、こういった学校の清掃のように、「集団のために何かをする、日本人が規律正しくルールを守る」などが日本人の素晴らしい資質であると感じるようになったと話していました。

私は、これらの記事等を見て、我々自らが良いと感じる日本の良さもありますが、外国で生活している人や外国の方から見て、「日本のこんなところが素晴らしい」と言ってもらえることをとても誇りに思います。当然、お国柄もあり、感じ方も違いますので、もしかするとこの記事にあるようなことが全てではないかもしれませんが、しかし、外から見える日本の良さについて、感じる事ができました。

実は、川東中学校の生徒達も、さまざまな教育活動の中で外部からお客さんが来られた時に、お褒めの言葉をいただくことが多くあります。日頃から生徒達に接しているご家族の皆様や我々教職員からすると、「もっとこうなってほしい」「もっとこうなればいいのに」とより良くしたいという思いから生徒達により高いレベルのことを要求してしまっているのかもしれませんが、改めて生徒達の良さに注目したいと感じました。

この一学期も、生徒達は学習、生徒会活動、部活動に誠心誠意取り組み、多くの場面で成果を上げることができました。これも、日頃から保護者や地域の皆様から多くのご理解とご支援をいただいているおかげと思っています。夏休みが充実したものとなり、2学期の始業式にまた全ての生徒達と笑顔で会えることを楽しみにしております。

本当にありがとうございます。